

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174200640		
法人名	社会福祉法人 武蔵野福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の丘		
所在地	本市市児玉町飯倉170-3		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍の状況で外出やご家族とのご面会も思うようにできない社会情勢です。そういう中ではありますが、私たちはご入居頂いておられる皆様が体調を維持され、お元気にお過ごし頂けるよう取り組んでいます。ご家族と面会も時には制限しなければならぬ事もありますが、感染対策に留意しながら、短い時間ですが玄関ホールにて対面して頂いております。四季の丘は小高い丘の上に立地しています。天気の良い日は近隣の散策に出かけ、時にはお知り合いの方とお会いすることもあります。「地域との絆」、お一人お一人の思いを大切に共有し寄り添い、明るく楽しい笑顔や笑い声が聞かれる施設づくりに努めています。法人はケアハウス、地域密着型通所介護、居宅介護支援事業所、地域密着型特別養護老人ホームを運営しており、一連のサービスが提供できるような体制が整えられています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「決めるのは職員ではない」をモットーに、利用者がどのようにしたいのかを汲み取り、各人の自己決定を尊重した支援が行われると共に、お互いの距離が近いことから、なれ合いにならないように、人生の先輩に敬意を払い、言葉にも注意をして、地域での生活が続くように努められている。  
 ・運営推進会議は、会議のメンバーから対面開催の方が効果があるとの意見があり、感染が落ち着いている時期は、感染対策を十分施し、地域包括支援センター・住民代表・家族・職員の参加を得て開催され、積極的な意見交換や情報共有が行われ、開催が困難な場合のみ報告書を送付し、意見を伺うことで代替えされている。  
 ・目標達成計画については、夜間想定を含め、年2回の防災訓練が行われ、「非常災害対策計画」も作成されている。近隣の同一法人の複数の事業所と協力関係にあり、備蓄等は法人として整備され、自治会との防災協定も締結されていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	法人の運営理念が「利用者・家族・地域との絆」であり、法人の理念を基に「大切な人に心からの癒しを」提供できるよう一人ひとりの思いや希望に沿った支援に努めています。	「決めるのは職員ではない」をモットーに、利用者がどのようにしたいのかを汲み取り、各人の自己決定を尊重した支援が行われている。また、お互いの距離が近いことからなれ合いにならないように、人生の先輩として敬意を払い、言葉にも注意をして、地域での生活が続くように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や外出を通して地域と交流を図り、自治会加入や防災協定の締結、地域の子供神輿や保育園の慰問等の交流もありましたが、コロナ禍の影響で現在交流は中止の状況です。	コロナ禍で地域との交流や催しが中止となる中、近隣の散歩時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをいただいたり、廃品の回収を職員が学校まで届けたり、できる範囲のつきあいが継続されている。今後の感染の動向等を見定め、買い物等の外出を検討とのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で生活されている人や入居者家族から支援の方法等の相談がある時は対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1度開催し、地域包括支援センター職員、地域住民、ご家族が参加。運営の状況やサービスの実践状況を報告、意見や助言を頂いてサービスの質の向上に取り組んでいます。コロナ禍で開催できない時は書面で実施しています。	運営推進会議のメンバーから対面の方が効果があるとの意見があり、感染が落ち着いている時期は、感染対策を十分に施し、地域包括支援センター・住民代表・家族・職員の参加を得て開催され、積極的な意見交換や情報共有が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議内容及び結果報告等を通じ、事業所の情報を知って頂ける様に努めています。運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席もあり、相談や協力関係を築けるように努めています。	市からは、質問や相談について適切な解答やセッションをいただいております。運営推進会議には地域包括支援センターの出席を得、また、「地域ケア会議」に参加することで、各事業所との意見交換や情報の共有が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より「身体拘束をしないケア」を職員と共有し実践。日中施錠は行わず、言葉使いや接する態度にも注意を払い、穏やかに暮らして頂けるよう努めています。	職員研修や身体拘束廃止委員会が行われると共に、運営推進会議において身体拘束に関する説明が行われ、会議のメンバーと実践状況の共有が図られている。点滴時に抜去の心配があれば、職員が付きそうなど、身体拘束を必要としない支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないことであり、虐待防止関連法案についても学習し、日々のケアの中でお互いに言葉使い等にも注意しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方もおられ、研修でも学ぶ機会を作り必要時に相談に応じられるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面を提示し時間を掛け、丁寧にわかりやすく理解して頂けるように、十分な説明を行い同意を得られるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、日常的な会話の中からもご意見やご要望の把握に努め、ご利用者のお支払いや面会の機会を通してご家族様からのご希望やご要望を伺い、サービス提供に資するよう努めています。	利用者とは日々の関わりの中で、家族とは面会や支払いの来訪時を利用してコミュニケーションを深め、来訪の少ない家族には、管理者より手紙による連絡が行われ、汲み取られた意見や要望は、日々のサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や法人全体の管理者会議があり、意見や提案が運営に反映できるように努めています。	日々のミーティングや隔月の職員会議、毎月の管理者会議で、職員の意見や要望を汲み取る仕組みが作られており、クリスマス会や誕生会、事業所の前の道路での職員の車のスピードダウンなど、提案が活かされた事例が多く見受けられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その人に合った働き方や休み等、働きやすい職場環境を整える努力を行っています。向上心や意欲を持って仕事に取り組んでいける様、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながらスキルアップしていく事ができるよう支援しています。外部研修はコロナ禍にて殆ど開催されていないが事業所内の研修を行い、働きながら学びあう機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会や、地域ケアマネジャー連絡会等への参加で、他事業所と交流を図り、サービスの質の向上に努めていましたが、コロナ禍にて開催機会は少なくなった現状があります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接では、本人と家族にお会いし丁寧にお話しさせて頂いています。情報や要望は職員間で共有し、入居された後は密に接し不安感の除去に努め、安心して暮らして頂けるよう支援に努めさせて頂いています。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後のご家族の不安や心配事、困っている事には丁寧に耳を傾け、コミュニケーションを図り、不安感の除去に努め、安心して頂けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談を重ねながら情報提供を行い、必要に応じ適切なサービスの支援が行える様に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の「できる事」を日々の暮らしの中で生かしながら楽しみや自信をもって生活できるよう支援に努め、共に暮らす関係でありたいと取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人を支えて下さる最も大切な存在であり、支えて頂ける様面会時には日々の生活状況をお伝えし、安心して暮らして頂けるよう関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域となじみの関係が途切れないよう、外食や買い物等支援に努めていましたが、コロナ禍の影響で交流の機会が減少している状況です。	コロナ禍でも、家族・友人・知人等の面会を感染対策を施し、場所を限定、時間を制限して可能とされ、利用者、家族には喜ばれている。また、今後の感染の状況等を見定め、梅や桜の花見が実施できないかの検討が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のテーブル席は相性を考えて決めています。状況が変化した場合は随時検討し、一人ひとりの個性や思いに沿って、入居者様同士が支えあい良好な関係を築ける様に支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で暮らす関係性には変わりはなく、相談等の問い合わせには丁寧に応じるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの希望や意向の把握に努め、ご本人のお気持ちに沿った支援ができるよう努めています。	嫌なことには表情が曇るなど、変化をよく観察して相手の感情を汲み取ることに努められており、徘徊する方には「外に行きますか」などの声かけをしてその時の気持ちを探るようにされている。また、入居したばかりの方にはいろいろ試行して、その後の支援に活かすようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からも生活歴や習慣、趣味や大切にしていた事等の情報を収集し、基本情報シートを作成、職員間で情報を共有し快適に安心できる生活を送る事ができる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活習慣やリズムを大切にしながら、健康状態や本人の思いを日々の生活の中から把握する事に努め、有する能力が暮らしの中で生かせるよう支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望や要望、ご本人の思い等日々のケアやコミュニケーションを通して把握し情報を共有、介護計画に反映できるよう努めています。	利用者担当を中心にモニタリングが行われ、主治医の意見や家族の要望も取り入れた介護計画の作成が行われている。家族の希望と健康管理のせめぎ合いとなることも生じるが、糖尿病の利用者に対して職員が低糖質のおやつを作って提供するなどの工夫も見受けられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や夜勤日誌、業務日誌や申し送りノートを活用し、職員全員が情報を共有し、ケアの実践や介護計画の作成に反映できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり個性や生活歴があり、その時々に出されたニーズには、希望に沿えるよう柔軟な対応に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染の商店に出かけたり、馴染の神社へ初詣や花見に出かけ地域の方との交流を継続し、関係が途切れない様支援に努めていましたが、現状コロナ禍で交流が難しい状況があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接や説明時等に協力医療機関の説明を行っている。ご本人やご家族の希望により、かかりつけ医との連携も可能です。	入居時に往診・24時間対応の協力医療機関の説明が行われ、大半の利用者が主治医とされている。従来からの医療機関の受診は家族の付き添いを原則とされているが、必要な場合や新たな医療機関を受診する場合は職員が付き添い、日頃の状況を説明されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員がおり、介護職と連携を取りながら日々の健康管理や医療処置等が適切に行えるよう努めている。24時間オンコールは可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には随時医療機関に出向き、状況の把握に努めながら医師やご家族と相談し早期退院が可能であるよう連携につとめています。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族に事業所で対応可能な医療行為についても説明、状況の変化によりご家族や医師と方針が共有できる様に取り組み、ご本人・ご家族の意向により「看取り介護」も可能です。	入居時に「看取りに関する指針」の説明が行われている。血圧、酸素飽和度等の基準が設けられており、重度化した場合は家族との話し合いを重ね、医師の協力も得て、最適の選択ができる体制が整えられている。また、看取りの経験と研修を積むことで、スキルと意識の向上が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修等で知識や技術の習得に努め、日々のケアの中でも実践力が身につくよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、周知徹底を図り、消防署の協力を得て年2回の総合訓練を行っており、夜間に行われる職員会議では夜間想定訓練を実施している。また、地域の自治会と防災協定を締結しています。	夜間想定を含め、年2回の防災訓練が行われ、「非常災害対策計画」も作成されている。近隣の同一法人の複数の事業所と協力関係にあり、備蓄等は法人として整備され、自治会との防災協定も締結されている。また、水害の危険性の無い立地であることも確認されている。	水害の危険性の無い立地であることを確認し、隣接事業所との協力関係や自治会との防災協定が結ばれています。災害時は予期せぬことが生じる可能性もあります。コロナの終息を見据えて、地域の協力を得た訓練が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重はケアを実践するうえで最優先に考えています。自尊心を傷つけない声掛けやケアのあり方等、十分な配慮を行いながら人生の先輩として尊敬し、日々のケアに取り組んでいます。	過剰介護で利用者の自尊心を傷つけないように配慮が行われ、他人に知られたいくない事には、言葉も含めて注意がなされ、各人の自己決定を尊重した支援が行われている。また、地元の職員が多く利用者との関係が近いので、馴れ合い的にならないように研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの話には耳を傾け、ゆっくり傾聴するように努めています。本人の思いや希望が表出できる様働きかけ支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように日々を過ごされたいか、ご本人の意思を尊重し、施設の日課を優先せずに柔軟な対応を行っています。本人の意向や希望を大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容の美容師さんが毎月来られ希望者は散髪して頂いている。衣類もご本人と一緒に決めて好みに沿った身だしなみが整えられるよう支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくり和やかに食事が出来るよう配慮し、個人の有する能力を尊重しながら出来る事の支援に努めています。本人から希望があった際には、お部屋で食べる事も可能です。	法人の栄養士による献立に基き、ケアハウスの厨房で調理された主菜に、事業所で作られた暖かいご飯と汁物を加えて提供されている。給食委員会が月1回開催され、利用者の嗜好や要望が検討・反映され、パン類・麺類を含む多様な食事を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の把握を行い記録している。嫌いな物は代替品に変更したり一人ひとりの状況に応じて形態を変更したり、トロミをつけたり個々の嗜好や能力に適した支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは日課となっており、困難な部分は磨き直し等の支援を行っている。義歯の方は夜間帯は義歯洗浄剤を使用して清潔を保てる様にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンの把握に努めている。出来る限りトイレで排泄ができる様支援に努めています。	排泄チェック表により各人の排泄リズムが把握され、トイレでの排泄を原則に支援が行われている。夜間はポータブルトイレなど各人の状況に併せて、出来るだけオムツを使わない対応が行われている。また、トイレは、男子用・女子用が別々に設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や根菜類、水分摂取等に努め、身体を動かせるような活動を行い、困難な方は医師の処方により緩下剤や便を柔らかくする薬等を適切に使用、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に決まっているが、希望や状態に応じて随時入浴も可能です。柚子湯や菖蒲湯、バラ湯等を実施し、季節感を味わって楽しめる工夫も行っています。	週2日を基本に、利用者の希望や状況により随時入浴が可能である。機械浴も設置され、体位の保持が困難な方も湯船に浸かることが可能である。また、しょうぶ湯や柚子湯などの季節湯も楽しんでいる。現在入浴拒否の方は居られないとのこと。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活は本人のペースを尊重しています。活動・休息等思い思いに過ごして頂き、日中穏やかに過ごされる事で安心して入眠されるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし服用後の経過や副作用の把握に努めています。安心して服薬支援ができるよう、医師や薬剤師に相談できる体制が整っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や出来る能力を把握し、その方に合った役割や楽しみを持ち、毎日を楽しんで暮らして頂ける様、支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩や買い物、外出等に出かけられるように支援を行い、家族や知人と外出されたり、外泊される方もおられたが、コロナ禍の社会情勢から積極的な外出等は難しい現状です。	気候・天候が許す限り、散歩や外気浴が行われている。また、感染状況を見ながら家族や知人との外出や帰宅をされた方はおられるが、積極的な外出や外食は困難となっている。今後、コロナ禍の状況を見ながら、ドライブや花見などの企画が検討されている。	個別の外出が行われ、感染の終焉を見据えて企画型の外出も検討され始めています。コロナ禍の長い間に高齢化も進んでいます。高齢者に適した今後の外出のあり方を含めての検討が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持される方もおられ、買い物の際に本人自ら支払いができるよう支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用可能で職員は取替ぎの支援を行っています。手紙を書かれた際には、宛先の確認や投函の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活が出来る様に、室温や湿度、換気や照明等の配慮を行っています。入居者の皆さんで制作された四季折々の飾り付けや、季節の花を飾り居心地良く暮らして頂けるよう配慮しています。	雛祭りの大きな雛段が両ユニット共に飾られ、季節の花々が絶やされることのない共用空間は、食堂や浴室には暖簾が掛けられ、懐かしさを感じる雰囲気を作られ、利用者は思いおmoiの場所で過ごされている。また、感染対策のため、大型の空気清浄機が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごされている時間も大切に、お互いの部屋を行き来されたり、共用空間では気の合う方と隣席にしたり、楽しんで過ごせるよう支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、お気に入りのソファを持ち込まれたり、本人や家族と相談しながら思い思いの過ごしやすい居室であるよう工夫しています。	居室には、各自の馴染みの家具や日用品、時計、家族の写真などが自由に持ち込まれると共に加湿器が全室に備えられ、落ち着いて快適に過ごしていただける環境が作られている。清掃や整理整頓も行き届き、共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から室内はバリアフリーで手すりを設置。車いすの方でも自由に移動が可能です。場所が分からなくなっても手作りの案内表示を貼ったり、居室ドアに目印になるような飾り物をつけたり配慮しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム四季の丘

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍で外出やご家族様との面会も制限等があった日々の暮らしでした。感染状況も落ち着きつつある社会情勢になって参りましたので、コロナ禍前のように外出や外食等、日常の暮らしに楽しみが見出せるような支援に努めて行きます。	ご自宅への外出・外泊、近隣のスーパー等へのショッピング、外食等、ご本人のご希望に沿った日常生活を取り入れ、暮らしに楽しみや張り合いが持てるよう支援に努めて行きたい。	これまで通りアルコール消毒、換気、体温測定等、気を緩めることなく感染対策に努め、入居者の皆様の健康管理を第一に考慮しながら、ご希望に沿った日常生活が送れるよう取り組んでいく。	12ヶ月
2	35	地震や火災等は昼夜を問わず発生する可能性があり、直近の法人職員と連携に努め、地域自治会とも防災協定を締結し協力関係を図って行きます。	火災や地震等自然災害全般に対して常に意識を高め、協力関係を築きながら災害対策の充実に取り組んでいく。	職員会議を活用し、自然災害全般に関する意識を高め、訓練の回数を増やしていく。また、地域住民、法人職員へ参加を呼びかけ協力関係を築いていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。